



企画部広報課

〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19番1号

TEL:092-871-6631 FAX:092-864-9415

http://www.fukuoka-u.ac.jp/

福岡大学 FUKUOKA UNIVERSITY

PRESS
RELEASE

2021年8月25日(水) No.●

※プレスリリースは福岡大学公式ホームページ「マスコミ関係の皆さま」でも配信しています
送付枚数1枚(本書含む)

報道関係者 各位

福岡大学筑紫病院小児IBD（炎症性腸疾患） 研究会がキッズデザイン賞を受賞しました

炎症性腸疾患(以下、IBD)は比較的若年者に発症する原因不明の疾患です。頻回な排便・腹痛を認め、長期にわたる治療や食事制限など生活上で大きな支障をきたします。上述の様な症状で診断を受ける方は増加していますが、実際にIBDと診断される人は少なく、中学校3校あたり1人程度の有病率です。

そうした疾患の特徴から、IBDの子どもが生活上の共感を得られていない実態があるのではないかと福岡大学筑紫病院小児IBD研究会は考え、10代のIBDの子どもたちと福岡大学筑紫病院の有志により実態調査とワークショップを2019年より実施しています。2020年には、その成果物として『学校生活をより良いものにするために』を発行しました。そうした取り組みが評価され、この度、第15回キッズデザイン賞(特定非営利活動法人キッズデザイン協議会主催)を受賞しました。この賞は子どもや子どもの産み育てに配慮した全ての製品・サービス・空間・活動・研究を対象とする顕彰制度で2007年から行われています。

<受賞研究の要点>

■参加者:筑紫病院に通院歴があり、研究協力に同意を得たIBDの10代の子ども達、
医療・教育・デザイン分野の専門家(9職種)

■目的:10代のIBDの子ども達が生活上抱える問題を解決する

■方法:オンラインでのアンケート調査およびワークショップを実施

■内容:子どもたちの学校/生活実態のデータ収集とピアサポートの場を提供するための
ワークショップを実施。データを収集、分析・デザイン化し冊子を作成

▼研究概要

▼キッズデザインマーク



本研究に対する取材をお願いします。

取材していただける場合は、以下のお問い合わせ先までご連絡ください。

【お問い合わせ先】

福岡大学筑紫病院 臨床保育士 高野 祥子

電話:092-921-1011(代)(内線:7157) メールアドレス: abes@fukuoka-u.ac.jp



学校生活を よりよいものにするために

福岡大学筑紫病院
小児科・消化器内科

IBDと診断された
あなたへ

学校にどう伝えたい？

先生もすべての病気のことを理解していないので、資料を見せてもらいながら理解するようになっています。

資料「担任の先生へ」とお渡ししています。もっと詳しくお聞きになりたい時は、担任の先生と相談することもあります。

- 1. 先生への挨拶は、学校生活の第一歩です。
- 2. 先生に話を聞かせ、自分の気持ちを伝えることも大切です。
- 3. 先生から話を聞かせ、自分の気持ちを伝えることも大切です。

マーク

このマークを身につけてください。

手帳をどうしようか悩んでいますか？

マークを身につけてください。

トイレ対策

トイレに行くことが多く、多量に水分を摂取しても大丈夫です。緊急の場合は先生にも伝えて聞いて、特別の配慮をしてくれるようにしています。

成分栄養剤について

成分栄養剤は健康な食生活で補うことができます。

健康剤は、使用の仕方がある場合は、先生の先生に示しても確認していただきます。

飲んですぐに効果を感じたいですか？

健康剤で飲むことも可能です。